

皮膚科のトリビア

195

浅井 俊弥(浅井皮膚科クリニック)

<http://www.asai-hihuka.com/trivia.html>

トリビア(trivia)=3を意味するtriと+道を意味するviaでもとは三叉路の意。古代ローマで三叉路が多かったことから「どこにでもある場所」,そこから転じて「瑣末なこと」となり,今では雑学的知識,豆知識,などを意味する言葉として定着している。

本欄は,小誌・浅井編集委員が学会・研究会などで見聞きした「皮膚科のトリビア」をその都度まとめ,連載しています。ご意見等ございましたら,ぜひ小誌「声」欄までお寄せください。

●第84回日本皮膚科学会東京支部学術大会

令和2年11月21日

川崎病の爪病変

3歳の女兒,川崎病を発症し,手指に紅斑,浮腫を生じた。免疫グロブリンで加療を受け,その後アスピリンを内服中。発症1カ月後,手指,足趾の爪甲先端に紅色~褐色の色調変化と爪甲の点状出血があり,臨床的に川崎病に伴うorange-brown chromonychiaと診断した。川崎病の亜急性期にみられる爪病変。慢性期にはonychomadesis(Beau's line,爪甲脱落症),pincer nailがみられるという。

一言コメント

「文献的には発症5~8日目の川崎病患者の75%にみられる変化で,炎症に伴う爪床の充血,点状出血が原因とのこと。疾患特異的ではないような気がするが,川崎病は四肢末梢に皮膚病変をきたしやすいからだろう。」

●第84回日本皮膚科学会東京支部学術大会

令和2年11月21日

急に生じる口腔粘膜の色素斑は悪性腫瘍のデルマドローム

60歳代の女性。初診10日前にそれまではなかった舌,頬粘膜の褐色色素沈着に気づいた。全身のほかの場所には同様の病変なし。病理組織は基底層のメラニン増加と粘膜固有層のメラノファージで,非

特異的。上部消化管内視鏡で食道癌が発見され,切除を行ったところ,色素斑は1カ月で自然消褪した。口腔粘膜に急に生じる色素斑は悪性腫瘍のデルマドロームの可能性がある。

一言コメント

「手指,手掌に急に生じる色素斑も悪性腫瘍のデルマドロームの可能性があると読んだことがある。この症例は,食道癌の近傍にある口腔粘膜に色素病変が出現したということかもしれない。」

●第84回日本皮膚科学会東京支部学術大会

令和2年11月21日

腹部大動脈瘤に続発したlivedo

80歳代の女性。入浴中に突然両下肢の脱力感が出現。同時に下腹部から両下肢全体に環の閉じた紅褐色斑を生じた。下腹部右に拍動性の皮下腫瘍を触知。CKが6,000 μ /Lと上昇。皮膚生検の病理組織は真皮の細小血管内に血栓を認めた。下腹部の腫瘍はCTにて,径67 mmの巨大腹部大動脈瘤で,そこに生じた血栓が撒布された結果と診断した。

一言コメント

「下肢筋の脱力感も筋への血行障害とそれに伴う筋融解とのこと。両足趾はコレステロール結晶塞栓のような紫斑を伴っていた。よく,皮膚と筋だけで済んだと思った。」

●第84回日本皮膚科学会東京支部学術大会
令和2年11月21日

皮膚表在細菌感染症の抗菌薬に 第三世代セフェムは無用

MSSA, 溶連菌をターゲットとした皮膚表在細菌感染症の内服治療は, アモキシシリン・クラブリ酸ないしセファレキシン(第一世代), セファクロル(第二世代)にしておくのがよい. MRSAを含む黄色ブドウ球菌はミノサイクリン, ST合剤, クリンダマイシン, リネゾリドが適応となり, MRSAの感受性はそれぞれ, 80%, 99%, 30%, 100%である.

一言コメント

「第三世代セフェムをついつい使いがちだが, 実は経口吸収率が総じて低く, 半減期も短く, 臨床的なデータも多くない. 使用が必要とされる状況は多くはなく, 点滴からのstep-downや*H.influenzae*による急性中耳炎ぐらいらしい. さっそく改心してセファレキシンにしておこう.」

●第84回日本皮膚科学会東京支部学術大会
令和2年11月21日

カナダ皮膚科学会の choosing wisely

①両下肢の発赤・腫脹に対してルーチンで抗菌薬を処方しない. ②ステロイド・抗菌薬合剤の外用をルーチンで処方しない. ③創傷に対してルーチンで外用抗菌薬を処方しない. ④皮膚糸状菌症に対して真菌を確認せずに全身性抗真菌薬を処方しない. ⑤尋常性痤瘡に対して有効性を評価せずに3カ月以上経口抗菌薬を処方しない.

一言コメント

「確かにそうなのだが, たとえばゲンタマイシン軟膏などは抗菌作用を期待するというよりは, 手ごろな量で使いやすい, 清潔な状態を維持できる, ワセリン基剤の, 被覆をするのにちょうどよい外用薬という感じの使い方をしている. 薬剤耐性の問題解決に協力すべきなのだろう.」

●某製薬会社主催Web講演会から
令和2年12月4日

ビタミンK₂, B₁₂をつくる酵素は ヒトになく, 腸内細菌がつくる

腸内細菌には, ビタミンB₁, B₂, B₆, B₁₂, パントテン酸(B₅), ナイアシン(B₃), ビオチン(B₇), ビタミンK₂, 葉酸(B₉)を合成する能力がある. これらの中でK₂とB₁₂はヒトがそれをつくる酵素をもっていないため, すべて腸内細菌が合成している.

一言コメント

「腸内細菌の話題は近ごろよく耳にするが, 何が正しいのか, 複雑で理解できていない. ビタミンKとB₁₂をつくる酵素がヒトにないというのは意外だった. 止血や細胞の活動に必須なビタミンが, 腸内細菌に依存しているのは, どんな共存, 進化の歴史があるのだろうか.」

●第893回日本皮膚科学会東京地方会から
令和2年12月19日

潰瘍をきたす毛母腫の特徴

20歳代女性の左上腕に生じた皮内の腫瘍が潰瘍化した. 潰瘍周囲はぬるっとした触感で紫紅色調. 皮内から皮下にやや硬い結節を触れ, 毛母腫と診断. 潰瘍化を形成する亜型で, perforating pilomatricomaと呼ばれる. その特徴は, 短期間に増大すること, 顔面以外に上腕や背部といった, 下床が硬い部位に発生すること, 組織学的には腫瘍の中心が真皮浅層に存在し皮下に及ばないこととされている.

一言コメント

「最近石灰化上皮腫とはいわず, 毛包由来であることが明らかになったため, 毛母腫という名称になったようだ. ムチンが溜まってぶよっとするタイプも上肢の伸側に多い印象がある.」